



# 別の顔

放課後は



引き祭りで披露した「棒踊り」や「ジャンベ」の練習で充実した時間を過ごすことができました。  
小学校5年生から水泳を、中学1年生からは陸上を習っていて、最近は短距離走に夢中。重いボールを使った全身運動や、足の運び方などの練習をしている時間が楽しいです。100m走の目標

高限中学校  
あわしま 凛さん(3年生)



社会科の近現代史が好き。お世話になった先輩達のため、卒業式の2日前から自主的に校内清掃を行う熱血漢で「その姿を見て他の生徒も協力してくれたことがうれしい」と語る。



**私** は1年生のころから書記として生徒会に携わってきたこともあり、自ら立候補して昨年10月から生徒会長になりました。  
2月には高校生ミュージカル「ヒメとヒコ」に出演したり、鉤



は、現在13秒台のタイムを12秒台に縮めること。足の回転と組み替えのスピードを上げ、後ろに足が流れないようにすることを意識して、練習を重ねていきたいと思っています。高校でも陸上は続けたいので、学業も運動も並行して頑張ります。

昔、度尾で起きた出来事にクローズアップ!



## タイムトラベル ~温故写新~

25話

ほうきょういんとう

### 宝篋印塔に託された思い



輝北天球館(輝北町市成)へ向かう登り坂の途中にある「登見の丘公園」。その奥で堂々と市成の町を見下ろしているのが「土岐氏宝篋印塔」です。

3mもの高さを誇るこの宝篋印塔には「万治元年(1658年)成成霜月十二日死亡」と刻まれており、市成を治めていた土岐久頼の長男、忠頼の死に際して作られた碑であることが分かっています。

宝篋印塔は10世紀の中国の呉越王、銭弘俶が延命を願って置いた8万4千個の塔が起源とされ、そこに密教由来の経典である「宝篋印陀羅尼經」の教えが混ざり、日本に伝来したとき

れています。また、宝篋印塔は供養塔・墓碑塔としての意味合いを持ち、鎌倉時代ごろから各地で造立されてきました。「土岐氏宝篋印塔」にも見られるとおり装飾性の高さが特徴で、主に身分が高い人の間で用いられる傾向があります。

土岐久頼は家督を継いだ後、島津家久の娘を妻に迎え、当時の島津家の当主である光久とは義兄弟の関係になりました。これにより島津氏との関係は強化され享保3年(1646年)には島津の姓と、名前に「久」の字を名乗ることを許されます。これにより市成は、島津の私領として幕末まで「武士の町」としての性質を強くしていくのです。

この塔は元々墓地に建立されていたものを、明治百年を記念した公園整備事業を機に登見の丘公園へ移設されました。長男を18歳の若さで亡くした久頼の思いはいかばかりか、立派な宝篋印塔から偲ばれます。



▲登見の丘公園から見た景色。見晴らしが良く、市成の町を一望できる。